

全ての争議を解決し
安全・安心の航空へ

航空連ニュース

航空労組連絡会
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル
Tel 03-3742-3251
Fax 03-5737-7819
No.954(34-04)2019年10月19日

10/9 国民支援共闘会議主催 代表者会議報告②

オリ・パラまで争議を残すな！

討論で出された意見

特別協議は不誠実団交、全国で大規模な行動を

大企業といえどもこんなに馬鹿にされた協議を続けるべきなのか。不当解雇の辛酸を嘗めさせられた挙げ句、試験を受けさせて落とし、その後の対応も本当に腹立たしい。特別協議は不誠実団交でまさに労組法の7条2項に該当する。直ちに都労委に訴えるべきではないか。また団交を申し入れるべき。団交の出席メンバーは組合が委任すれば、支援共闘の役員や争議団、弁護士を入れる。不誠実交渉になれば労働委員会でも分かり易い。とんでもない JAL がオリパラの公式スポンサー。33の全国支援組織が一斉に立ち上がり、集中して全国で大規模な行動を起こすべき。

宣伝に集会にデモと取り組んできた、

原告に寄り添い皆さんと共に闘う

「愛知の会」は毎月1回夕方、金山総合駅前での他の争議も含めた宣伝を行い、中部国際空港で争議解決を求めるTシャツを着て空港内を歩いて宣伝している。半年に1回、交通運輸産業での労働講座を行い、JAL 争議を支援する決起集会としている。今月5日には名古屋駅前で宣伝。6日には200名が参加する小牧平和県民集会で、JAL 争議の訴えや物資の販売、デモ行進に参加。オリ・パラ組織委員会宛ての葉書は、自前で300枚刷り取り組み中。原告の要求に寄り添い、一日も早い解決の為に皆さんと共に闘っていく。



「10回目の大晦日は迎えさせない」をスローガンに懸命に取り組む

2013年7月3日に結成。徳島空港での要請行動、JR 徳島駅前での宣伝行動、ビラ配布、要請書、はがき、カンパ等様々な取り組みをしてきた。県内オルグを年に2回行っているが、組織の拡大が困難な状況もある。昨年の株主総会での植木会長の発言で好転するかに見えたが、不誠実な対応が明らか。オリ・パラまでノラリクラリかわせばと考えている。「10回目の大晦日は迎えさせない」をスローガンに懸命に取り組む。

区内35駅頭での宣伝や区議会への陳情もした 年内解決に向け全国の仲間の決起を

「年内解決を目指して最大結集を」の方針について、全力を上げて取り組んでいく。9月2日には大田区議会に、「オリ・パラの公式スポンサーに相応しい企業対応を求める」陳情を出し、全会派への要請を行った。区議会からは議会の審査に付さないと冷たい通知が届いた。引き続き論議させるよう運動を強めていきたい。10月2日に代理店への要請を行った。10月10日と11月11日には蒲田駅で宣伝行動を行う。6月の35駅頭リレー宣伝では、様々な対話ができ、JALの闘いを大きく知らせて風を起す貴重な経験をした。全国の仲間が一斉に決起し、全国的運動を作り上げることが年内解決させる確かな力になる。

オリ・パラまで残していいのか！ 世論高めて追い込んでいこう

解決するための突破口は、今は東京オリ・パラだと思う。「JAL の解雇争議を東京オリ・パラまで残すな」等のスローガンを掲げ、職場の中で経営者も含め「10 回目の大晦日を迎えさせない」の世論を作る必要がある。そのための運動を本気で考えるべき。国際線を焦点にした闘い方がある。国際線のある空港で、一斉宣伝を行うとか大デモを行う等。地方ではマスコミが乗ってくれる。模擬制服を着て目立つことも必要。ビラも 5 カ国語くらい準備して、国際的にも「オリ・パラまで残していたらおかしい」世論を作り、追い込んで行く運動を作ろう。

日航に解決案を明示させること、組織委には直ちに要請を

資本側は、闘う側が一步退けば 2 歩 3 歩攻めて来る。これが日本の大企業のやり方である。特別協議が解決の場になっていない。争議を解決する責任者が一切出ていない。一度も解決案を提示していない。特別協議を続けるなら、①経営のトップを出席させる。②解決案を提示させる。③組合側の交渉人は組合側で決める。以上を明確にして特別協議を申し入れたらどうか。ダメなら団交で社長を出席させて、解決交渉に入るべき。当該労組はスト体制を検討して頂きたい。馳衆院議員の質問に対して、福家人財戦略部長は嘘を言った。「希望退職を行ったが人員が至らなかった」と言ったが、希望退職の人員は至っていたのは裁判でも明らか。



「協議を続けている」というが、一切やっていない。協議というのは、会社が解決案を出してそれについて話し合うこと。国民支援共闘は馳議員に、事実に基づいた資料を渡したら良い。要請はがきは、昨日 1000 枚印刷し協力の段取りをした。オリ・パラ組織委員会への要請はすぐをお願いしたい。全国で声を上げることが社会的に包囲することになる。

関東キャラバンに旅行代理転要請を展開、全国統一行動で力の発揮を

労働組合潰しであることをはっきりさせないと方針が組み立てられない。特別協議と言いながら労働組合の要求と向き合わず、形骸化した話し合いを続けている。こんな不当なことは許さないと言うことが全国で通じたからこそ 33 の支援組織ができた。自前で関東キャラバンを行ったが、1100 名の人々が参加し成功できた。10 月 3 日に中部共闘で 17 カ所の代理店を回った。単発的個別的ではなく全国統一行動にしていけないと力が発揮できない。オリ・パラを中心に会社の弱点を追求。社会的企業が憲法 28 条違反。そこを攻めないで何を攻めるのか。集中的に国会、オリ・パラへの取り組み、労働委員会の活用など頑張っていきたい。

全国で統一した闘いをどう作り上げるかが重要な時期に来ている

国労は 24 年間の闘いで様々な教訓を得た。JAL の闘いを見ていると、一つに纏まっているだろうか。私たちは闘いを一つにして何とか解決を図りたいという気持ちで、全国で支援共闘に加盟し闘いを推し進めている。全国で統一した闘いをどう作り上げるかが重要な時期に来ている。JAL も労働組合にかけられた闘いであり、キチンと解決させないと、まともな声を上げる労働者が虐げられる状況になってしまう。年内解決のために何ができるのか、この会議がスタートライン。これを受けて仲間に発信したい。全国の仲間と一緒に大きな闘いを作り上げ解決を目指す。

オリ・パラに合わせて実態を広める、争議を勝つことは多くの労働者を救う事になる

国労は、政治的解決によって、雇用は取れなかったが一定の成果を勝ち取った。JAL は責任ある人が出てこない。解決案も示さない。要求を出してもノラリクラリとかかわす。仕掛けられた攻撃は同じと考える。国際基準に照らして、日本の労働法制や政府の対応がまずい、オリ・パラは世界各国から興味のある一大イベントである。ここに合わせて実態を広め宣伝をしていく。今でも眼に見えない所で、首を切られている労働者が沢山いる。大規模な争議を勝つことで、中小の労働者を救う事になる。「団結まつり」等これまで行ってきた取り組みは解決するまで続けていく。

不誠実な対応には不当労働行為の申立の構えが必要、駅頭宣伝や議員要請に取り組む

組合が出した統一要求を議論させるように運動を転換させていかないといけない。社長出席の団交申し入れに、電話で「経営協議会も特別協議もやっているから必要ない」と回答があったそうだが、電話での回答は問題外。経営協議会も特別協議も労使対等ではない。労使対等の団体交渉でしか解決できない。その構えを持つためには、不当労働行為の申し立てをする構えが必要。大田区の運動に学び、京浜急行のエアポート急行の停車駅で宣伝を行おうと準備している。7日に神奈川出身議員48名の事務所を回り要請した。支援者自身自ら方針に基づき動いていきたい。

JALの闘いで多くを学んだ、支援共闘の提起にしっかり応え全力を尽す

要求・方針・解決内容の基本は、当該労組と原告の意思決定によって確定する。支援者はそれに従う。内部干渉はしないことが大原則。組合と原告の皆さんの運動のおかげで、東京国交は多くを学び励まされた。解雇問題では顕著な前進は見られていないが、契約制の闘い、マタハラ裁判、春闘要求で多数派を形成していることなど、前進面も9年の運動総括が必要。労働者と経営者の闘いについては、押されっ放しではないと感じる。東京国交は支援共闘からの提起については、しっかりと応え全力を尽したい。労組の励ましになるような運動は何かを探りたい。



情勢を切り開くとはこちらの力を強くすること、最大限のバックアップをしたい

千代田区労協は、千代田総行動という武器を持っている。年3回の行動。争議解決を含めた国会への要請行動、賃上げなど様々なことやっている。総行動だけで、区内の中央駅等で支援ビラを年間6000枚、これまで5万枚を配布している。組合はそろそろ伝家の宝刀を抜く時期ではないか。伝家の宝刀とはストライキ権である。水戸黄門で言えば今8時47分頃に来ている。印籠を見せる時間帯。情勢は敵と味方の力関係の到達点である。突然原告団側が力関係で勝つこともある。情勢を切り開くとはこちらの力を強くすること。その為にも伝家の宝刀を抜く意気込みを出して頂きたい。それができれば解決できると思う。最大限のバックアップをしていきたい。

団交拒否にどう対応するのか、全国行動の具体化する手はずを

12月14日に、解雇問題の解決交渉で社長出席を求める要請書を出している。8月29日と10月3日にも、団交への社長出席を求める要請書が出されている。3度目の要請について回答がなかったら、どうするつもりなのか教えて頂きたい。また、全国の行動について国民支援共闘としてどう具体化を図るのか方向性を教えて頂きたい。神奈川連絡会結成集会で、JAL争議がわかる関連図を作成したので、各地で運動をする時に役に立つかと思うので、後ほど配布したい。

閉会の挨拶と団結頑張ろう……国民支援共闘代表 糸谷全国港湾委員長

解決の主役は当該組合であり原告団であるが、この問題が労働者全体に対する挑戦であることを考えれば、解決するのは労働者全体であり、私たちは主役である。支援組織を立ち上げ支援している理由はそこにある。そういう意識があるからこそ気合いを入れて支援している。年月が経つと組織内事情も変化し難しさはあるが、労働者全体への挑戦だと言うことは継続して次の世代にも引きついで頂きたい。私たちは支え役であるが、支え役の主役は皆さんであることを確認したい。

